外国人就労状況の変化 -事業所追加調査報告-

日本大学 梅村麦生

外国人雇用事業所追加調査

・事業所調査

2019年度に実施。豊岡市に拠点を持つ事業所1642件に質問紙を送付。

有効回収数は327件。

そのうち、**外国人の雇用有40件**、雇用無287件。

・事業所追加調査

2020年8月に実施。上記調査で雇用ありと回答した事業所およびその後の聞き取りで雇用が判明した**事業所計53件に追加で質問紙**（コロナによる影響について）を送付。

→有効回収数41件。

豊岡市外国人住民に関する調査（追加調査）

（事業所調査票）

ご協力をお願い

本調査票は、2019年度「豊岡市外国人住民に関する調査」にご協力いただいた事業所にお送りさせていただいております。昨年度の調査実施から1年が経ち、外国人住民を雇用する事業所の現況についておうかがいするため、本調査票をお送りいたしました。

ご多用の折りに誠に恐縮ではございますが、9月19日（土）までにご記入の上、同封の返信用封筒にてご返送ください（切手は不要です）。

いただいたご回答は、今後の調査研究と提言の参考とさせていただきます。また、調査にご協力いただいた事業所や個人のお名前、住所などの情報は厳格に保護されます。

何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

2020年8月

実施者 神戸大学大学院人文学研究科社会学研究室（電話 078-803-5561）

豊岡市役所政策調整部政策調整課政策調整係（電話 0796-21-9022）

問1 あなたの事業所では、現在外国人を雇っていますか。

1. 雇っている
2. 雇っておらず、2020年度中は雇う予定がない
3. 雇っていないが、2020年度中に雇う予定がある（開始予定年月： 年 月）

「1. 雇っている」を選択した方 現在、何人の外国人を雇っていますか。出身国、性別、雇用形態ごとにお答えください。

41件の事業所で雇用されている外国人数

296名（2019年度） → 292名（2020年9月）

- ・ 正社員・派遣社員・技能実習生・パート等の解雇・退職・契約終了は40名、新規雇用は16名。各国との出入国制限にともない、技能実習、インターンシップの新規受け入れは一時停止（その後、一時解除も再停止）。
 - ・ 一部の事業所では新たに正社員・契約社員としての採用を行っており、ある事業所（製造業）では増産対応のため、フィリピン人を20名雇用
- 地域の外国人住民の構成に大きな変化が予想される

< 在留資格別・豊岡市外国籍住民数（単位：人） >

在留資格		①2019年11月末	②2020年7月末	③2021年7月末	増減（③-①）
	技能実習	355	301	281	▲ 74
	特定活動	52	51	47	▲ 5
	技術・人文知識・国際業務	48	42	81	33
「短期」計	技能	8	8	5	▲ 3
①506	経営・管理	3	2	2	▲ 1
②441	教育	17	17	12	▲ 5
③458	企業内転勤	1	0	0	▲ 1
	留学	2	0	5	3
	特定技能	0	0	4	4
	家族滞在	20	20	21	1
「長期」計	永住者	140	143	162	22
①325	特別永住者	62	59	58	▲ 4
②314	定住者	64	58	73	9
③351	日本人の配偶者等	57	52	56	▲ 1
	永住者の配偶者等	2	2	2	0
外国籍住民計		831	755	809	▲ 22

主に城崎地域でベトナム人社員、ネパール人社員の雇用増

主に豊岡地域でフィリピン人の永住者・定住者（「日系」等）の増加

*住民基本台帳データより

在留資格・雇用形態に関する変化

- ・ 追加調査回答（2020年9月）では、停滞していた技能実習生の新規受け入れ再開が見込まれており、とりわけ同年10月以降に新規受け入れが多数あった。
 - ・ しかし2021年5月よりふたたび入国制限が始まり、2021年8月現在では修了・帰国した実習生に代わる新規受け入れがふたたび止まっている。
- そうしたなか、新たな国からの、また新たな業種や事業所での技能実習生の受け入れも始まっている一方で、特定技能への移行も一部で始まり、専門職や長期滞在の在留資格をもつ外国人従業員の雇用がこの間に拡大している。

明らかな業績の悪化

「あなたの事業所では、2020年4月～7月の期間について、前年の同期間と比較して景況感に変化はありましたか」

31事業所が「やや悪くなった」(4)「悪くなった」(27)と回答

→今後、パート・アルバイトで雇用されている外国人（長期滞在者が主）にも影響が出る可能性

事業所の声

・ 入国制限・人材不足への不安

「技能実習の期間満了に伴い人員の入れ替えを予定しているが入国の見通しが立っていない」

「入国が1年以上遅れて例年通りの研修ができず、通常のように就労をはじめられていない」*

「入国制限が解除されても、現地での事情が変わって実際に本人が来てくれるかわからない」*

・ 「単なる労働力」ではなく、「貴重な人材」としての外国人

「人材としての(人手不足対策ではなく)外国人労働力に期待するところは変わりありませんが
コロナ禍の現状は受け入れざるを得ず早期の終息を祈るばかりです」

「今後益々外国人住民の就業・労働力は重要になると思われる。その為、数年(初年度～)の住宅など生活支援や補助制度が必要と考える」

「外国人だからという理由での対応の変更はないと思う。日本人と同じ扱い」

* 2021年8月電話聞き取りより

社会福祉協議会と外国人住民との関わり

「これまで外国人との接点が少なかったが、コロナ禍で特例貸し付け*が始まって、生活費に困った外国人が相談に来たため、かかわりが広がっている」

「ただ、外国人住民との具体的な接点とか、支援が広がっているというところまでには至っていない」

*生活福祉資金の特例貸付・緊急小口資金

これまでに245件の申し込み（＝貸付）があり、うち外国人は15件

（2020年10月時点）

人数的には多数を占めるベトナム人、中国人からの相談は「いまのところない」。

情報伝達経路の問題

「[日本人の] 申し込みは4月に集中したが、外国人から申請があったのは5月末」

「ほとんどが、同じ国出身の人に教えてもらって申し込みに来た。同じ国出身の人たちは横のつながり、コミュニティを強く持っている。[市・政府などの] 広報などを見て来た、という人はいない。SNSなどで、豊岡以外のところに住んでいる人から教えてもらった、という人が多かった」

(社会福祉協議会聴き取りより)

豊岡市における外国人就労者

- 地域の産業を支える貴重な存在
- 社会・経済の変動や制度変更により、日本人労働者以上に大きく影響される
- 景気動向の悪化により、長期滞在者の雇用にも影響が出る可能性
- 諸制度にアクセスする手段・機会が限定的
- 居住地域を越えた同国人ネットワークの存在